

朝鮮石人像を訪ねて (25)

深田 晃二

この2ヶ月で多くの石人像に会えたので、本稿では盛りだくさんの訪問記事となった。また、訪問先も近畿地区(箕面・豊中)、東京都内、静岡県三島市と広範囲にわたっているのも満足である。

★ 箕面市温泉町「白玉稻荷大明神」下 ★

新年会で高校同期生から地図にマークして貰った場所を目印に訪ねて行った。

阪急電鉄箕面駅から真北に、土産物屋街を抜けて箕面スパーガーデン方面へ、屋外エレベータ塔の脇を通り、坂道を大きく右折そして左折して50mほど登る。白玉稻荷大明神の赤鳥居群が左手に見えてくるので、それらをくぐりながら谷川へ降りると川底に1体ポツンと有る。

梁冠の文人像で、高さ 2090mm。背中側は写真のように石垣があつて冠の後頭部の模様が目前に良く見える。同期生が見に行つたが発見できずとのことであったがさもありなん、川底に設置してあり水に洗われている。車道から見ると45度ほど下方向でかつ木々が視界を邪魔している。

ピンポイントの正確な情報に信頼性を確信し、その足で情報源である箕面郷土資料館館長福田薰氏を訪問した。運良く在館中で話を聞くことができた。「この辺りは明治時代には動物園があつた場所で、その一部の日本庭園の石造物が残存しているものと思われる。」とのことである。前回資料館で石人像の有り場所を尋ねた時は石仏特別展示中で、石仏の専門家では石人像の有り場所を不承知だっただけに、今回館長に会えて幸運だった。同期生にはハガキで礼状を出しておいた。

付近に十三層石塔・五層石塔・春日灯籠なども残っている。

館長から他の2件の詳細な場所が聞けた。当日(1月28日)にもう一ヶ所(桜墓地)を訪問した。

★ 箕面市桜3丁目「桜墓地」★

阪急電鉄牧落駅北へ 200m で箕面市役所前の大通に出る。左(西)に曲がって 400m で川に、橋を渡つて二つめの筋を右(北)へ 100m。桜墓地の中の道路際にある。駅から徒歩 15 分。梁冠(縦縞)文人像 1 体、高さ 1500mm。



箕面西小学校の遠足のHP記事から存在を知り、昨年 10 月に校区内を探し回つたが発見できず。くだんの同期生が郷土資料館長から所在を聞き出してくれ、また直接館長からも話が聞けた。前号報告の京都未生流笛岡家元に加えて、気に掛かっていた不明2ヶ所の石人像に会えて溜飲が下つた。

「粹人の墓地で歌碑が添えてある。秀吉の朝鮮の役の帰りに、船を安定させるために積んで帰つたとの話もある。」と空船のバラスト説も話に出てきた。

2首の歌が二つの石碑に彫つてある。足元には敷石の揚重用鉄フックが多数あるので歩きづらい。

★ 箕面市石丸「美食俱楽部みのお茶寮」★

日を変えて(1月 30 日)紹介の有つたもう一ヶ所を訪問した。阪急電鉄石橋駅から阪急バス「JR 茨木駅」行、所要時間 20 分「今宮」下車。信号のある交差点を北へ 500m、箕面第四中学校の角を右に、10m で為那都比吉神社参道がある。参道を北へ 20m 行くと右手が「みのお茶寮」である。

道路から石像を覗き見ていると、怪訝そうにこちらをうかがう柿色の作務衣の人がいた、この店のご主人であった。挨拶をして庭園内を見せてもらった。主人は「趣味で収集しているが、変わった趣味だろう、これを尋ねてくるあなたもたいがい変な人だ」と言いながら、お茶の接待をしてくれ同種の変人を笑顔で歓迎してくれた。

庭園内には4対の石人像と一つの長明燈がある。

一対の石人像は、今までの分類に当てはまらない

「程子冠(정자관)」と思われる冠をかぶつた文人像である。主人の言によれば韓国の博物館の人が「なぜここにあるの?」と驚いたという曰く付きの物である。

程子冠は儒者が平常時に使用する冠で写真は TV ドラマ同伊で庭いじりする儒者の正面と側面姿であり、その形が分かる。

石像では、大4小4の三角のとんがりが計8個あり、数は実物と合致するが、横への出っ張りは省略されている(高さ 1080mm × 2 体)。昨年訪れた韓国古石博物館の図録には文人像の分類で1体だけ写真が載つていて。

次も珍しい丸坊主の石人像で「濟州島のもの」との話である(高さ 900mm、860mm)。古石博物館図録では、濟州童子像として丸坊主の石像が載つていて、大きさは半分ぐらいで、かつ全体の雰囲気は大分異なる様に見える。調査研究課題がまた



増えた。

その他、内侍2対は別々の庭に設置してある。穏やかな表情(高さ 970mm、1000mm)と、少しきつい目元(高さ 1070mm、1060mm)のもので、2対とも本来のペアと見受けられた。

長明燈は「石屋が置いて行った」もので、塀の外に自転車と一緒に無造作に置いてあった。



★豊中市服部元町「美食俱楽部のんべえ村」★

みのお茶寮の主人から豊中で経営する飲屋の店にも石人像が置いていると聞いて、早速向かった。

阪急電鉄服部駅下車、東側改札を出るとタクシー乗り場があり、その前に「服部元町商店街」のアーチ看板が有る。そこを入って 10m、左手に有る。

鼻の先が修理してあるのは、「鼻をお守りにする風習が韓国に有り削り取られたからだ。日本で蛇の皮を財布に入れておくと金が貯まると言うのと同じだ」と教えてもらった(高さ 1100mm×2 体)。



戦前愛媛県の宇和島に石人像数千体が陸揚げされそこから各地へ散らばり、いまは宇和島には残数が少ないと。こちらも調査する必要がある。また、手元にあった大きな一体を福島へ移設したこと、宇治黄檗山万福寺に程子冠石像が1体有ることなどの情報を頂いた。

こうして新年会の同期生から始まった情報チェーンは無事収束したのであった。

★東京都世田谷区野毛2丁目「善養寺」★

2月22日～24日、孫の1才の祝い(돌잔지)で久しぶりに関東(千葉)に出かけたので、韓国語の「石」の祝いにちなんで、行きに一ヶ所、帰りに一ヶ所の石人像を訪問した。

行きは東京都世田谷区の「善養寺」へ。東急電車二子玉川駅からバス(7番乗場、玉11系統「多摩川駅」行)で野毛2丁目下車、徒歩5分の場所。

小川に掛かる赤い橋を渡ると、目に飛び込むのは石垣の上の左右の石羊、大きい。続いて巨大な武人像、文人像、正面の階段左右には光化門前の物に負けないくらい大きい大いにテ(海駄)。

それらの大きさと要所金銀に着色された色彩とが、他の石人像とは違った雰囲気を醸し出している。

見学途中に住職の眞保龍斎氏が帰ってこられ、お話を聞きする事が出来た。ガンダーラ美術に興味があり、インド・スリランカ・中国などを旅行し仏教関係の文物を収集したとのことで、黄金宝塔・舍利容器等を数多く所蔵されている。石人像は府中の庭師や比叡山麓の石仏商から買い求めたという。

早稲田出身の方で會津八一ゆかりの石人像の話をし、設置工事時の写真を見せてもらった。ここでもお茶の接待を受けて感激であった。



境内には文人像5体、武人像2体、童子像4体、ヘテ2軀、石羊4軀、石虎2軀、望柱石8基、長明燈2基、基台石2基、香炉石6個、五層石塔1基、井戸枠1組に加え、墓碑・礎石やガンダーラ石仏が数多く収集されている。4mを越える文人・武人像は模して作られた新造品と見受けられた。

★ 静岡県三島市「佐野美術館・隆泉苑」★

2009年5月に郭昌坤氏が確認された朝鮮国王子樂善君の神道碑を訪ねて三島に下り立った。駅の北口に出たら南口までグレット10分くらい歩くので要注意。近道は入場券が要る。JR三島駅から南へ徒歩20分ほどの佐野美術館。

美術館は工事中で当分入館できないが、石造物は隣の庭園「隆泉苑」にあり、常時開放されている。池を中心随所に設置してある。



写真の神道碑1基、文人2体、武人2体、望柱石5基、長明燈4基(1基は8角形)、多重石塔3基、基台石1基、魂遊石1基などである。魂遊石には珍しく香炉

石を捧げ持つ童子が一緒に彫り込まれている。

★ 京都市「白沙村荘・橋本関雪記念館」★



3月18日に引越手伝いで行った京都で偶然に石羊1対を見つけた。今出川の銀閣寺道入口にある白沙村荘の入口。京都にはまだまだ有りそうである。

★ 石人像情報のまとめ ★

そろそろ情報をまとめの時期に来たようだ。場所・緯度経度・行き方・石造物名と数などを、1現場1シートにまとめる積もりである。google地図で北緯東経を入れて、ストリートビューで見ると目的の石造物が見える所も多々ある。テストして見て下さい。(例題) 「善養寺」N35.60150,E139.64189 (続)